

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	中野新田グループホームそよ風(ゆとり、やすらぎユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	平成27年9月8日	評価結果市町村受理日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2294200908-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2294200908-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新たな企業理念は「しあわせ創造企業をめざす」の基に、その人の人生を輝かすことを目的としています。その人とは、利用者様であり御家族であり職員でもあります。利用者様が毎日楽しい、幸せだと思ってくれる様に、日々希望に沿ってそよ風ルネッサ「カラオケ・塗り絵・短歌等」100の項目から選び、半年に1度発表の場を作り遣り甲斐のある暮らしを提供しています。他にも利用者様の誕生会や、春には桜の花見・遠足、夏には夏祭りを開催し、地域の方々や子供太鼓のボランティア・木遣りのボランティアをお招きし利用者様に楽しんで頂いています。秋には運動会・敬老会、冬にはクリスマス・初詣・豆まき・梅見など毎月楽しんでいただける行事が、盛りだくさんです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全国に280余の介護保険事業所を抱える母体本部では、昨年度「CSはES(従業員満足度)から」との姿勢をもった内容に理念を一新しています。それに即して休暇制度をはじめとする手厚い福利厚生と堅固な職員教育が敷かれ、QCの高みを目指しているとの熱さが覗えます。ルネッサと称したアクティビティプログラムではカラオケ嫌いな人が繰り返しの刺激からマイクを持つようになったとの例もあり、これまで続く「東海道五十次スタンプラリー」とともにADL維持につながられています。昨年の12月に新管理者が任命され、旧管理者は施設長として2人3脚での運営が始まり、職員の表情や発語にも安心とともに意欲が現れていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人の幸せ創造していく理念に基づき、利用者様・ご家族・職員の幸せを共感・共有・共生できるように職員・管理者が実践してゆけるように努力しています。	全国に280余の介護保険事業所を抱える母体本部では、昨年度「CSはES(従業員満足度)から」との姿勢をもった内容に理念を一新しています。そのため管理者は個々に問いかけを切り返し、理解度を診ています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出掛けた際、地域の方に積極的に、声を掛けあいさつやお話をして、皆様の事を覚えていただくようにしています。	開設から10年となり、他施設のエスケープでは当所へと保護くださるほど認知度が高まっています。散歩では自宅の金魚を見せてもらい、事業所まつりは回覧板で知らされ、狭・広域ともに親しさが深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、地域の方々に認知症についての質問にお答えしたり地域の方が不安に思っていることを相談できるような体制作りに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の活動報告やサービスについてのお話をしています。また皆様からの提案やご意見を伺いサービス向上に活かしています。	地域住民6名が誘いあつての参加が続いています。「流しソーメンをする」と「じゃあ、(流し台を)作るよ」とレスポンスも機敏で、玄関の柵も「壊れそうだね」と積極的に修繕が進み、頼もしい応援団となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議に出席して頂いたり、解らない事を電話で聞くなどして、事業所の実績を伝えながら、協力をお願いしています。	行政には運営推進会議の議事録を毎回届け、最近久しく出席もくださったので案内も再開しようと考えています。また有事には区域の皆さんの役に立てるよう、「避難場所として手を挙げようか」との話もできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で身体拘束廃止について考え身体拘束廃止委員会を作り内部研修を行い職員に呼びかけ検討しています。	係る研修は年1回必ず有り知識は十分ですが、習性として口調がキツメの人もいて、上位者が注意するだけでなくその場を代行することで雰囲気緩和させています。心身状態の変化で必要性もでてくるため、月のホーム会議で見直しもおこなわれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法及び事例について研修を行い職員の意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について外部研修で学んでもらい、他の職員に知識の共有が出来るように発表してもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、利用者様やご家族に充分理解して頂けるよう説明し疑問点はないか、あれば答えて理解・納得していただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来たときには、話をし意見・要望を聞くようにしています。また意見箱の設置や家族会を行い気軽に話せるように心掛けています。	面会では普段の様子や気になることを職員から先に話すようにしており、家族の口が自然に開くよう、また努めて「聴く」ことに気配りしています。家族アンケートにも「安心」という言葉が繰り返しでてきています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員に声掛けをして意見・提案を聞き、月に1度のホーム会議にて、話し合いをして反映させています。	新管理者は職員が「見てもらえる」「良い点を認めてもらえる」ことで成長すると信じ、三者評価のチェックシートを準備し始めています。また施設長と管理者の2人3脚を以て職員の心的なゆとりが生まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2～3回の自己評価と面談を実施して職員個々の実績・勤務状況を把握し、また意見を聞いて少しでも働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議時、勉強会を行ったり、内部研修や外部研修に積極的に参加してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会合に参加したり、研修時に知り合った同業者との連絡を密に取り情報交換やネットワーク作り・意見交換を行い、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して本人と面談をし困っていることや要望を聞き、それについて丁寧にお答えし、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まえに家族と面談し、困っていることや要望をお聞きし、家族の思いを汲み取り良い関係づくりに、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と面接し生活状況を聞きまず何がなかを見極め、必要であれば他のサービスの利用についてもお話しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と食事や遊び、家事を一緒にやり家族の一員の様な関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送るホーム便りで、本人の写真と共に普段の様子を伝えています。家族がいつでも来やすいように職員は声掛けに心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人が面会に来られた際は、暖かくもてなし馴染みの関係が途切れないように心掛けています。	季節に触れる折々に短歌を嗜む利用者は自費出版で本にまとめ、人生目標を此処で達成しています。それに刺激されてか、他にも歌詠みがでてNHK番組「短歌de胸キュン」を肩を並べ目を輝かせて見入る姿があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるように、話の橋渡しをしたり、レクリエーション等を行い仲間意識が持てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との話の中から思いや要望を汲み取るように心掛けている	「汲み取るチカラが弱いかも」という視点からセンター方式を始めています。管理者から「まだまだ」と何度も返されることで、「利用者のことを理解している」度合いが見えてくるため「面白味」を感じる職員もでています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いその人の馴染みの暮らし方や馴染みの人・環境を利用者様やご家族から聞き把握するように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の健康状態や心理状態・能力を観察して現状の状態を把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当介護職員を置き、モニタリングを行って計画作成者・ケアマネ・介護職員でカンファレンスを行い介護計画を作成しています。	管理者と施設長が其々ユニットリーダー兼計画作成担当者として介護計画書を用意していますが、それを基に各担当職員が介護援助計画表をつくることで作成担当を担うことに相当し、チームケアが進んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し問題点の抽出を行い見直しして、実践しその結果を職員で共有しながら介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人一人のニーズに合ったサービスを行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握をし、その人に合った資源を活用して楽しく安全な暮らしの提供に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週1度あり、個別でもかかりつけ医の受診の際には家族に付き添っていただいています。その際は、状況を口頭かお手紙でお伝えしています。	かかりつけ医の受診支援は常には家族にお願いしていますが、事情があって難しい場合は職員が代行しています。往診の医師は開設以来変わっておらず、訪問看護事業所とも情報連携くださっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回健康管理に来ておりその際利用者の普段の様子や健康状態についての気づきを相談しています。必要に応じて医師・家族に相談し受診のお願いをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、利用者様の普段の様子を伝え、退院の際は、情報を貰い生活支援に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の家族の考えは入所時に聞き取りを行っていますが、状態や家族の気持ちが変わっていくことがあるので、納得いくまで、話し合い、より良い終末期のあり方を考えていくように心掛けています。医師・訪問看護師と共に協力体制を築き支援しています。	これまでの実績は「やすらぎ」ユニットにあります。今後は「ゆとり」ユニットと差がでないよう、職員の意識や技能を見直して一つの事業所として取組んでゆくべく態勢を整えつつあります。「その人を見つめることで最期の瞬間に望みを届けられた」経験がセンター方式導入となりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故発生時にはマニュアルに沿って行うように指導し、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を年2回行っています。地域の方々は、緊急時は、声を掛けてくださる手を貸しますと言ってくれました。	防災係が消防署と交渉のうえ次回は専門職の指導を仰ぎつつ訓練がおこなわれる予定です。また「地域住民とともにおこなえるように」と考えていて、呼びかけの方法を検討中です。職員含め3日分の備蓄があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応をしています。	該当の所内研修は年2回おこなわれ、テストの結果では8割程度の習熟度があります。カラオケ嫌いな人が、周囲が回数を重ねる刺激からマイクを持つようになったとの例もあり、自然にウオントを拾うことにも長けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で、本人の意思や希望を聞き自己決定できるように、心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう、ゆったりとしたペースに合った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る人は、自分に合った服や、アクセサリを着けていただき、そうでない方には、職員が合った服を選んで着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけの出来る方には、声掛けをして手伝っていただいています。食事は職員と一緒に頂いています。	法人からは「美味しいものを制限なく」と奨励されており、家族からも「うらやましい」との声がこぼれています。野菜、肉がふんだんなボリュームある食事があつという間に消え、健啖ぶりに驚きました。	味、栄養ともに満点ですが、記録を振り返り「焼き物が少ないのでは？」「酢が使われていない」といった検証をおこない、調理方法や使用調味料に偏りが生じないことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好き嫌いを把握して、栄養士の方に管理していただいています。水分量も人それぞれなので、少なくならないように調整して、好きな飲み物をお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時・食後・就寝前に行っています。毎日口腔内を観察しその方に応じた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を毎日付け、状態の観察を行い排泄パターンに基づきトイレ誘導を行っています。	リハパンやオムツの人もいますが、把握したパターンから時間でも声をかけています。杖やバーを利用しながらも自らの足でトイレに向かう利用者とそれを見守る職員の様子から「できることを続ける」支援を視認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、運動して頂き食事は、繊維質の多いものをお出ししています。それでも出ない場合は、医師に相談し下剤の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は声掛けをして入浴していただいています。拒否されるときは、無理強いせず、少し時間を置いたり、次の日声掛けをして入っていただいています。	「毎日の入浴」を旨とし、必ず全員に声をかけています。拒否には無理強いせず、「人を替え、時間を替え、場所を替えて」誘い、衛生面を担保しています。訪問時には整容も成されていることを視認しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に応じて就寝時間が、違ってきます。その人が眠れる時間に応じてテレビを見たり部屋でくつろぎ入眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、個人ファイルに綴ってあり職員が共有できるようにしています。薬を確実に与薬出来るように、時間・曜日に個別の袋に分けて飲み忘れのないように管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ毎日のように午前中は、リハビリ体操・音楽体操で体を動かして頂き午後は、本人の趣味を生かした活動に参加して頂いています。生活面では、洗濯干しや洗濯タタミ食事の片づけテーブル拭きなど出来る方にお願いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望によりドライブに行ったり、動物園・スーパー・初詣・食事に出掛けています。	大きな移動車をもっておらず、また車いすの人が増えたことも相まって、大勢で出掛けるのは年1回の動物園&外食イベントに留まっています。レクリエーション係が月次行事を企画しているなかで月1回程度ドライブ外出もあり、天候のよい日は散歩が定番です。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に少しのお金を持っている人は、数人いますが、紛失の恐れがあるので、時々チェックしています。必要な買い物をする為家族よりお預かりしているので、買い物をしたい時は、職員と一緒に買い物に行っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、夜間20時まで好きな時に通話をしています。電話の取次ぎをしますが、利用者様には、お手紙を書いていただいています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのような共有空間は間接照明機器や心地よい温度設定に心掛け居心地の良い安全な配置にしています。また季節感が出るように壁には季節に合わせた。飾り付けをしています。	アクティビティ、ソング、写真の掲示からは日々の取組みの高さが見て取れ、実際食事前の念の入った体操と発声練習を視認しました。清掃当番が毎日おこなうため総体として清潔が保たれていますが、5Sにはやや課題が残ります。	担当が決まっていないエリアの清掃や整理整頓について「どうしたらいいか」を職員間で話し合うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファや椅子を配置しており、どこでも好きな場所に行き、気の合った利用者同士が気軽に話しが出来る様に配置してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、馴染みの家具や家族の写真などを持って来ていただき居心地の良い空間にレイアウトしています。	扇風機や電子時計といった電化製品をはじめ好みである小物も持ち込まれていますが、全体としてはすっきりとした印象の居室です。「日差しが強くて」との理由から職員がよしずを備え付けており、暮らしの趣が感じられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は危険のないように、バリアフリーになっています。トイレが解りやすいように、見える位置に、表示してあります。廊下・トイレ・浴室には手すりがついていて、なるべく自立した生活が送れるように工夫しています		